

外部講師による音楽活動の一考察 —B保育園における実践を通して—

A Study of Extracurricular Music Activities by Another Instruction Group
— through the activity for Nursery School B —

高垣展代, 連 桃季恵
Nobuyo TAKAGAKI, Tokie MURAJI

〈要旨〉

B保育園が外部講師として筆者に依頼し、エミール・ジャック＝ダルクローズの考案した音楽教育法ユーリズミックスの教室を開催して30数年になる。まだユーリズミックスが正しく理解されていなかった時期に、B保育園が保育時間外活動といえ、なぜこの教育方法を取り入れたのだろうか。前園長から聞き取り調査をした。また、30数年と長期に渡り続けているこの教室の意義や効果を「お楽しみ会」に寄せられた保護者の感想から考察した。感想には保護者がこどもに対する思いや特に印象に残ったこと、深く感じられたことを記していると考えられる。ダルクローズが確信した「それは実際には人間性を増す力として音楽を用いた一般教育であった」⁽¹⁾ことを、B保育園のユーリズミックス実践を通して改めて確認できた。

〈キーワード〉

保育外活動 音楽 身体表現 お楽しみ会 感想

1 はじめに

1985年5月B保育園が保育時間外活動としてエミール・ジャック・ダルクローズ（1865～1950、以後ダルクローズ）の考案した音楽教育法ユーリズミックス（日本ではリトミック、以後リトミック）を取り入れた。1983年11月にB保育園のある地区ブロック研修会で、筆者がリトミックの考え方や指導方法を紹介したのが、この教育を取り入れるきっかけとなった。当時、保護者から園児の保育時間外の過ごし方についていろいろ要請があり、保育園としても何か活動を取り入れようと考えていたようであった。その結果、リトミック活動を取り入れ、その活動が30数年に渡り続けていることは、少なくともリトミックの目指す教育効果が保育士や保護者に感じられたからだと言える。

5歳児の卒園時期に合わせて行なっている「お楽しみ会」を通して、保護者より寄せられた感想から、外部講師によるリトミック活動の意義や成果を考察する。

2 B保育園と外部講師の取り組み

2-1 導入の経緯

リトミックが導入された経緯を、当時のS園長から伺うことができた。S園長は幼児が保育園で長時間過ごす中、

ただ遊ぶだけではなくリズムのある生活をさせることが必要だと考えていた。保育時間の谷間を利用し、リトミック活動をすることで、幼児の生活にリズム感を持たせることが可能になり、また、よりよい効果を引き出すためには、リトミック教育の専門的な技能を身に付けた指導者のもので行うことが必要と考え、外部講師を導入することになったようだ。S園長は好奇心や感性、反射神経やリズム感をそだてるのは幼児期が最も適しており、その方法として身体で体験しないと、楽しさや達成感、満足感を得ることができないとも感じていた。また、保育士以外の人と過ごすことが社会性を育てることに繋がると考え、教室の導入を決められたそう。しかし、さらに大きな要因は、「今は成果ばかりを追い求め、プロセスを大切にしない。プロセスに意義があるのに…リズム感がないと思考力が育たないと私は思う」というS園長の言葉が物語っている。

ダルクローズは「種をまく前に、まず土壌を整えなくてはならない」⁽²⁾と述べている。それは、ピアノなどの楽器を弾くという種をまく前に、音楽を身体で感じて表現することを通して、音楽を愛好し自分自身の表現を見つけ出していくプロセスが重要であることを示唆している。成果よりプロセスを大切に、さらにリズム感を育成したいとい

うS園長の思いが、リトミック教育の理念と一致したのではないだろうか。また、東(2012)が「時間が発達をもたらすのではなく、その時どきを満たす経験が発達を促すのである」⁽³⁾と述べているように、リトミック教育は幼児の発育に応じて必要な体験を提供することが可能である。S園長は、このような知識を持った外部講師に依頼することが必要だと考えた。以上の経緯により、B保育園はリトミック活動を取り入れ、外部講師を導入することになった。

2-2 リトミックとは

リトミックとはスイスの作曲家・教育家であるダルクローズが、1905年スイスのゾロールトンで行われたスイス音楽家協会音楽教育会議で発表した音楽教育法である。ダルクローズは「こどもが音楽を単に耳から吸収するのではなく、体全体で感じとるように教育されるべきなのである」⁽⁴⁾との考えのもと、音楽を聴いて動きで反応していく過程(受動的反応)と、頭脳で考えた動きを身体で表現したり音楽として演奏したりする過程(能動的反応)を繰り返して行う方法を考案した。その過程で得られる集中力・記憶力・判断力・想像力・創造力などは、人間として持っていない能力であり、ダルクローズは「音楽によってなされる指導が音楽教育を超えるものであるということを知った。それは実際には、人間性を増す力として音楽を用いた一般教育であった」⁽¹⁾と確信した。

2-3 お楽しみ会の導入

リトミックの教室は、毎週決まった時間に40分間3・4・5歳児と年齢別に体験している。ある時、保育園から「保護者はお迎えの時間が遅いので、リトミック活動の様子がわからないから」と成果を見てもらう発表会を提案された。当時、筆者達はリトミックの活動は「〇〇ができた」のように結果を追いかけるものではなく途中経過を重要視していたため、発表の場をもつことは無理だと考えていた。直接活動している様子を見学してもらうように話をすると、リトミック活動までに保護者が保育園へお迎えに来ることは無理であるとの回答であった。保育園と話し合いの結果、出来上がった形を発表するのではなく、教室の様子を見てもらう形で発表することで落ち着き、名前も発表会としないことに決定した。はじめは毎年開催で3・4・5歳児と3クラスとも発表していたが、卒園するまでに一回は見てもらうことにして、2年に一回開催や、3歳児の発表を取りやめ4・5歳児クラスのみ発表にするなど、いろいろ紆余曲折があった。現在は4・5歳児クラスの「お楽しみ会」として毎年開催している。

内容として4歳児は、日ごろの体験の様子を物語風にして発表し、歌を通してその年のテーマを表現している。ま

た、保護者と園児と一緒にリトミックを体験する時間を取り入れることで、活動の楽しさを理解してもらうことにも力を入れている。5歳児は、小学校に入学することも視野に入れて活動しているため、音楽基礎知識の習得状況に応じた内容を発表に取り入れている。さらに5歳児のお楽しみ会後には、リトミック教室の修了式を行っている。

筆者たちはお楽しみ会の幼児の様子で毎年感心させられることがある。お楽しみ会が園行事であれば毎日でも保育時間内に練習することができる。しかし教室としては週一回、それも月・木曜日と別れて体験している(人数の関係で2日に分けて実施している)ので、練習は限られてくる。発表の流れを幼児が確認できるのは、当日の通し練習一回だけである。それにもかかわらず素晴らしい集中力で会を成功させてくれる。リトミック教育の一つの目的である集中力や記憶力の集大成になっていると考えられる。

また、毎年お楽しみ会には保護者が多数参加され、関心の高さが伺える。

3 研究方法

3-1 調査対象

平成20年度から平成26年度(平成23年度を抜かす)に実施したお楽しみ会後に寄せられた感想を調査対象とする。年度別の集まった感想の数とお楽しみ会の実施日(表3-1)を以下に示す。

表3-1 年度別の感想数とお楽しみ会実施日

	4歳児	5歳児
H20年度(2009年3月5日実施)	9	7
H21年度(2010年3月4日実施)	4	5
H22年度(2011年3月3日実施)	6	4
H24年度(2013年3月7日実施)	9	12
H25年度(2014年3月6日実施)	5	7
H26年度(2015年3月5日実施)	7	5
小 計	40	40
合 計	80	

筆者たちは、保護者の方々が保育園への連絡帳に記した感想等を拝読し、また保管してきた。その感想にはお楽しみ会でのご自身のお子さんの表情や様子など、感じたことが記されている。そして寄せられた感想は、筆者たちの働きかけでできたわけではなく、保護者の方々が自主的に連絡帳に記している。そのため、リトミック教室に参加している全幼児の保護者による感想ではない。

3-2 手続き

先にも述べたが、お楽しみ会では、4歳児クラスと5歳児クラスが各々の内容による発表を行っている。そのため、お子さんのクラスにより、保護者が感じたお楽しみ会への印象が異なることが推測される。

調査項目として、1) お楽しみ会での子どもたちの表情や様子に関する記載、2) リトミック活動やお楽しみ会を通して得た成果に関する記載、3) 自宅での会話等に関する記載、4) お楽しみ会での親子リトミックに関する記載(年中のみ)、5) その他を設け、保護者の方々の感想を1文ずつ解体し分類した。その分類した項目ごとに、4歳児と5歳児の感想を比較し、保護者がお楽しみ会やリトミック活動に求めていることや外部講師による活動の意義を考察する。

4 結果と考察

4-1 お楽しみ会での子どもたちの表情や様子に関する記載

お楽しみ会での子どもたちの表情や様子に関する記載は表4-1に示すとおりである。その中で、「楽しそうですね」や「楽しそうな様子が嬉しく思います」という文章が大変目立つ。この項目に関して記されていた感想(4歳児25文・5歳児20文)の内、4歳児12文・5歳児6文が「楽しそう」という言葉を使用し感想を述べている。「成果はよく分かりませんが楽しそうにしていたので良かったです」「理解度はイマイチでしたが、楽しそうにやっていたので良かったです」や、「嫌になったのかと心配していましたが、生き生きとしており、「楽しかった」と嬉しそうにしていたので良かったです」など、成果や理解度も重要ではあるだろうが、子どもたちが「楽しそう」に活動を行っていることに喜びと安心を感じていることがわかる。

また、「一生懸命」・「真剣な」・「かわいらしさ」などといった言葉も頻繁に抽出されており、「楽しそう」と同様、子どもたちが主体的に且つ積極的に活動に取り組んでいる様子が保護者の印象に強く残ったのではないだろうか。

表4-1 お楽しみ会での子どもたちの表情や様子に関する記載

【年中】

- ・ とても楽しそうですね
- ・ リズムにのって、楽しくできていることがわかり、1年間の成長を感じられ、とてもうれしく思いました
- ・ 楽しそうにしているのが印象に残りました
- ・ 見られていることでちょっと照れくさそうにしていたのですが、時々手を振ってくれたりし、とても楽しそうでした
- ・ たのしそうにうたったりおどったりできている姿がとてもかわいく頼もしかったです
- ・ 始まってみるととても楽しそうにリズムに合わせて動いていて普段の様子がわかって良かったです
- ・ ニコニコとても楽しそうにしてた姿は感動しました
- ・ とても楽しそうに参加しており良かったです

- ・ 成果はよく分かりませんが楽しそうにしていたので良かったです
- ・ リトミックたのしそうな笑顔と真剣に音をさく表情が印象的でした
- ・ 楽しそうにしている様子が嬉しくなりました
- ・ 楽しそうにしていたのでうれしく思いました
- ・ 一生懸命さは伝わって来ました(笑)
- ・ とても頑張っていてうれしかったです。「もったいないばあさん」すぐかわいくて元気いっぱいな姿になりました
- ・ 「あんなにたくさん来てると思わなかったよー。」と言って、いつもと違う様子だったと思うのに、頑張ったなあと思いました
- ・ いつもと違った一面を見られてよかったです
- ・ 恥ずかしいやら嬉しいやらの表情でがんばっている姿に感動しました
- ・ かわいいやら、がんばりに感動!?するやらで笑いが止まらず涙まで出てしまいました(笑) 真剣にしているのに失礼な母ですね
- ・ とても張り切って頑張る姿に成長を感じました
- ・ 最初、目が合った時は照れた顔をしていたのですが、そのうちとっても必死にやっている姿が印象的でした
- ・ クスクス笑っているお友達がおもしろく、「何がおかしかったん?」と聞くと「だってはずかしかったもん」と言っていました
- ・ 上手に踊っていたのがかわいらしく見えました
- ・ 照れ屋の〇〇はちゃんと素敵な姿を見せてくれました
- ・ 照れ笑いで入ってくる〇〇にもらい笑いです
- ・ 落ち着きのない姿に母はヒヤヒヤしていました

【年長】

- ・ みんな一生懸命、しかも楽しんでがんばっていて、見ていて笑顔になってしまいました
- ・ とても楽しそうでした
- ・ 理解度はイマイチのようでしたが、楽しそうにやっていたので良かったです
- ・ 3年間楽しく参加していた様子がうかがえました
- ・ 楽しそうな姿を見て、やって良かったなあと感じました
- ・ 嫌になったのかと心配していましたが、生き生きとしており、「楽しかった」と嬉しそうにしていたので良かったです
- ・ みんなの真剣な姿がステキでした
- ・ 頑張っている姿を見ることができてうれしかったです
- ・ とにかくうれしそうにしていましたね。見ていて幸せな気持ちになりました
- ・ 子どもたちが一生けん命やっている姿はいいですね
- ・ みんなの顔が生き生きと嬉しそうに輝いていたのが何より印象的でした
- ・ 一生懸命やってかわいかったです
- ・ かわいい子供達の姿がみれました
- ・ 終始笑顔でとてもかわいらしかったです
- ・ 真剣というか全力投球な感じでした
- ・ みんなとほとんど同じことをしていたので安心しました
- ・ 大変上手で感動しました
- ・ みんな上手でした
- ・ リトミックみんな上手にできましたね
- ・ リトミック発表会ははずかしかったです(本人直筆感想)

4-2 リトミック活動やお楽しみ会を通して得た成果に関する記載

リトミック活動やお楽しみ会を通して得た成果に関して(表4-2)、保護者は音楽に関する能力の育成にのみに関心を持っているのではないことがわかった。音を聴き取る能力、それに反応し表現する能力、そしてその動きを知識として捉える能力、またリトミック活動の特徴を成す複雑な聴き取り(足と手で違うリズムを表現する複合リズム)にも対応できる身体を獲得していることに感心を持っている

記載が多数見られた(表4-2, ◎の箇所)。しかしながら、それにとどまらず「友達との関わり」に関する記載が多数見られ、4歳児1文・5歳児5文が抽出されている。4歳児より5歳児の感想の方に「友達との関わり」の記載が多くなっている理由として2点考えられる。1点目は、こどもたちの社会性の発達に合わせ、5歳児の普段のリトミック活動中に「友達と関わる」活動を意識的に配置させており、それをお楽しみ会にも反映させた内容であったため、保護者も自然と「友達との関わり」に注目したのではないだろうか。2点目として、これから小学校へ入学する直前の5歳児の保護者は、「友達と関わる」ということを重要視し、こどもたちに備わってほしい能力の一つとして意識しているからだと考えられる。

その他の感想に、普段は他の友達より行動が少し遅れてしまうのだが、リトミック活動では音楽に遅れることなくしっかり合わせて動くことができていたこと(表4-2, 下線部①)や、苦手だったことを嬉しそうに自信を持って表現していたこと(表4-2, 下線部②)などが記されていた。それらの感想から、リトミック教室のお楽しみ会が、こどもたちの潜在的な能力を引き出す契機となり、成長したこどもたちの姿を保護者に示す機会となっていることが推測される。

表4-2 リトミック活動やお楽しみ会を通して得た成果に関する記載

<p>【年中】</p> <p>◎何を言ってもあのリズム感♪子供ってすごいなあと思いました。こんなこともできるのかと驚きました</p> <p>◎演奏が始まるときちゃんとリズムをとる姿に驚きです。あんなにリズム音痴だったのに…すごいすごい!!</p> <p>◎難しいリズム、手と足とちがう事ってとてもできないよーと試ってみてました</p> <p>◎音楽に合わせてながら、歩調に合わせて、かつ手を別のリズムなんて私にはできません</p> <p>◎小さいのにちゃんと聞きとれていてすごい!!とおもいました</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思った以上に難しいことをしていて驚きました ・思ったより難しいことをしてびっくりしました ・初めて見て、難しいことをしていたんだな～とびっくりしました。あんなに難しいことももうできるんですね ・スキップもできるようになったんだなあ ・ちゃんと出来ていて良かったです ・活動中や見学中にお友達と関わってる姿、先生の指示を聞く姿に成長を感じました ・子供達の学習能力…スゴイ!!たとえ間違えていても、それ自分で気づき修正できるところがスゴイ!!と思いました ・いつもはお友達より3テンポ4テンポ遅れての行動なのに、<u>しっかり自分の耳で聞きわけて音に遅れることなく動いていてがんばったんだな～と感動しました ①</u> <p>【年長】</p> <p>◎みんなより一歩ずつおくれつつも、ボールを3～4人のグループでついでまわしていくのではびったり合わせられていて、おお!すごい!感動の一言です</p> <p>◎大人でもちょっと難しいようなリズムをみんな理解して感じました</p> <p>◎音を聞きとる力、身につけてますね</p>

- ◎リズムをちゃんと聞いているようで、動きも良くて本当にやっついて良かったなと思いました
- ◎聞くだけでリズムをとり、体が動かせるようになったことに感じました
- ◎みんな音を聞きながら違うリズムを体で表現できていてすごいなあと思いました。ばら組の時から比べるととても成長を感じました
- ◎耳でしっかり聞いて考えて動くこと、むずかしそうです
 - ・こんなことまでできるようになったんだ～とおどろきました
 - ・去年とは一段と違い成長したな～と感じました
 - ・年中さんの時の発表会を思うとみんなとても上達していました
 - ・一年間の成長ぶりとこども達の姿に感じました
 - ・昨年のリトミックの発表会と比べ、すごく成長を感じました
 - ・1年前の子供達と見違えるようで素晴らしかったです
 - ・去年より本当に大きく成長した姿が見られとてもみんな素敵でした
 - ・去年はちょっとふざけモードも入っていましたが、今年は上手にできるところを見てもらおうとがんばってました
 - ・はじまる前から昨年の発表会を思い出しようなる事かとどきどきしていました。予想に反して子供たちはみんなすばらしく感動しました
 - ・いつもはちょっと…という話を聞いてあれ??と思ったけど、やればできるんだと。
 - ・思ったよりずっと高度なことをしていました
 - ・単に音に反応するだけでなく、人と関わりながら一順番を待ったり、グループで考えながらリズムを並べたり一成長したなと感じました
 - ・みんなで協力しあって楽しんでやっている様子を見て、3年間続けてきてよかったなあとおもいます
 - ・みんなで音を聞き分け協力しあって表現している様子がとても可愛らしく感動しました
 - ・集中力もそうですが、お友達同士自然に声をかけ、相手のことも意識して取り組む姿にリトミックで得たものは大きかったなあ…
 - ・友達との関わりもしっかりできていて…感心です
 - ・とにかく苦手だった事が、嬉しそうに、そして自信を持って表現する事が出来、良かったです ②

◎はリズムや聴くことに関する記載
太字は友達との関わりに関する記載

4-3 自宅での会話等に関する記載

ダルクローズが「強い感動を味わえば、人は自分なりの仕方、他の人々にそれを伝えたいという欲求を感じるものなのである。私たちは、活力が増せば増すほど、私たちの周囲にも活力を届けようとするものである。受け取る、与える、これが人間性の大原則である。」⁽⁵⁾と述べている。お楽しみ会やリトミック活動においても、こどもたちはその時々で感じたことを保護者に伝えようとしており、自宅や車中で会話が活発に行われていたこと(表4-3)が把握できた。また、会話だけにとどまらず「歌」に関する記載があり、特に4歳児の感想に多かった。それは4歳児クラスの発表の中に、「歌」を題材にしたプログラムを盛り込んでいるからであろう。こどもたちはリトミック活動で覚えた歌を自宅でも歌っていたことになる。さらにお楽しみ会前にもかかわらず、こどもたちが自宅で歌っていたということは、保護者から促されて歌っていたのではなく、自発的に自然と口ずさんでいたと考えられる。「歌の美点の

ひとつは、こどもが学校で学んだことを家庭に分け与えられる、という点にある。こどもが家に持ち帰る歌は、どれも家庭を豊かにし、家族を若返らせ、高尚にし、高揚させ、楽しくし、結びつけ、活気づける。あたかも偶然水に落ちた小石のつくり出す波紋が、リズムのしなやかな働きで大きく広がっていくように、家族という輪の中にこどもの持ち込んだフォーク・ソングの働きは、遠くその波紋を拡げ、家の扉を開き、そのリズムの楽しさと、その歌詞の教えるところを地域全体にまでもたらしてくれる。』⁶⁾と歌による活動の意義をダルクローズが述べている。お楽しみ会やリトミック活動での経験が家庭に持ち込まれ、保護者とのやりとりが生まれていたことが確認できた。

表4-3 自宅での会話等に関する記載に関する記載

<p>【年中】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰宅してねるため布団に入って電気を消したとき、「あー、今日のリトミック発表会、楽しかったなあ。またしたいなあ」とつぶやいていました ・帰ってからは「間違ったわー。緊張したしー。」と笑っていました ・家でもリクエストしたら唄ってくれました ・家でも少し教えてくれていた「もったいなばあさん音頭♪」のかわいさに感激でした ・家に帰ってからは「お料理ショー」を一緒に歌いました。またまた教えてもらいました ・うちで「お好み焼き♪」と口ずさんでいたことを思い出しました ・家ではリトミックの話は全くしてくれないので未知の世界でしたが、思った以上に難しいことをしていたのでびっくりしました ・「ねこの宅配便」では歌も歌わず、ねこの鳴き声もせず…家に帰ってから歌っていました。恥ずかしかったようです <p>【年長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「カエルが一番がんばった。手つかれた。」だそうです。(笑) ・「なまえのえんぴつもらったー!!」「はだしやし、ちょっと足いたかったわ」とうれしそうに話をしています ・リトミック修了式後の車中で、絵をつづったものを見ながら、「○○ちゃん、ちいさい時下手くそやったんやー」「うわー、へったそ。」「ねえ、かっか、わたしちいさいときへったやね。」ちいさいとき、という言葉に吹き出しそうになりながら、見れば確かにとても音符には見えないさくらんぼやらおたまじゃくしやら…。かわいい…。大きくなったなあ(笑) ・ばら組の時は、自分が先生になって自分で作ったリズム表を見せ、「これはばんやさん、ケーキやさん、さかなやさん、どれでしょうか?」と良く遊びました ・「今日の発表会ちゃんと出来て楽しかった」「いつもは楽しくないの?」と聞くと、「練習の時はみんなちょっとずつ注意されるから」だそうです。(笑) ・リトミックのあった日はいつも家で楽しそうに話してくれました

4-4 親子リトミックに関する記載

親子リトミックに関する記載(表4-4)から、親子リトミックの活動を保護者は肯定的に捉えていることがわかる。親子リトミックをお楽しみ会に取り入れた目的は、まずこどもたちが行っている活動を保護者自身が実際に行うということと、親子が音楽を通して触れ合う機会を提供することだ。その目的どおり、保護者自身が実際に活動を行った事により、音楽を聴き即座に反応する難しさや、こど

もたちが心を揺さぶらせながら活動を行っていること(表4-4、下線部③)、さらに集中力を常に持続させなければいけない(表4-4、点線)ということなどを、保護者自身が感じ取っていた。そして日常生活での親子の触れ合いとは違い、音楽を通しての触れ合いをこどもも保護者も楽しんでいた様子が窺える。

表4-4 親子リトミックに関する記載

<p>【年中のみ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰り道では「お母さんと一緒にリトミックできて楽しかった!」ととてもご機嫌 ・「やってみると結構難しいな」と子供たちの頑張りを見直し改めて素敵でした ・親子でペアになっての活動ではうれしすぎて?テンションがぐーんと上がってとびついてきました ・一緒に参加できた事も難しいなと思いつつ、楽しく感じる事ができてよかったです ・実際にやってみて、見ているよりむずかしく改めて子供達のすごさがわかりました ・親子でのリズムをとったりする時も○○に色々と教えられました ・私も楽しく参加させていただきました ・親の出番の時には子供たちの前で間違えないかとドキドキしました ・実際やってみるとやっぱり集中力がいるな～と感じます。それをさらっとやってしまうこどもたちすごいですね ・子供達が簡単そうにやっていたことを実際にやってみると、ちゃんと聞いて集中しないと出来なかったことがよくわかりました ・大人のリトミックも即時反応はドキドキ、複合リズムも楽しめました ・子供たちはドキドキワクワクな気持ちを受けているんだと自分が体験して感じました③ ・まさか私たちが発表する側に立たされるとは思わなかったです。「ママ、鼻の穴大きくして、こんな顔しとったネ」と言われました。たぶん私もちょっと照れた顔をしていたのかもしれませんが ・自分が実際やってみてすごく集中力がいるんだなあ実感しました <p style="text-align: right;">※点線は集中力に関する記載</p>

4-5 その他

4・5歳児どちらの感想にも、「もう少し先生の話を開けるようになってほしい」といった生活規範に関する記載があった。また「最近忙しかったが久しぶりに癒された」という記載もあり、保護者は忙しい日常生活であっても、こどもが一途に活動に取り組む姿に心動かされ、一時の安らぎを感じていたことが窺える。また5歳児の感想には、最後までやり遂げたことへの達成感や満足感がこどもたちから感じられたことや、今後もこの経験を生かしてほしいといったことが記されており、こどもたちにとってリトミック活動やお楽しみ会が良き経験となり、さらにこどもたちの自信へとつながっていると保護者は感じているようだ。

4-6 まとめ

先にも述べたように、リトミック教育は音楽教育として創案されているが、後に人間教育としての重要性をダル

クローズ自身が提唱し、それを達成すべく研究や指導が行われている。筆者たちも、音楽をよりよく学ぶための教育法であるということを中心にしながら、子どもたちが生きていくために必要となる能力の育成も同時に目指してきた。具体的には、子どもたちが友達と関わることで様々な感情や能力を引き出すことができると考え、「友達と関わる」活動を大切にしてきた。また、音や音楽を聴き、考え判断し、表現する過程において、子どもたちが集中力・注意力・判断力・行動力・想像力・創造力等を獲得できるように、筆者たちは様々なアプローチを模索し提示してきた。本研究において、保護者がリトミック活動やお楽しみ会を通して音楽能力の育成だけでなく、子ども一人ひとりが積極的に活動に参加し、友達や先生と関わりながら、人としての成長を達成させていくことを期待していることが明らかになった。これらは筆者たちが目指してきた教育理念と一致していると考えられる。確かに、外部講師による専門的な教室だからこそ、音楽教室のように音楽能力を育成し確固たる知識を備えることができるように取り組む必要はある。しかし、子どもたちの主体性や積極的な気持ちを引き出すためには、「楽しい」に代表される心を揺り動かす活動を模索しなければならない。冒頭において、B保育園にリトミック教室を導入する契機となった考えとして、「身体表現することで楽しむことができ、反射神経を育てる過程において達成感を得ることができる」ことが挙げられている。リトミック教室導入当初からの考えが現在でも、引き継がれており、達成できていると考えられる。

子どもは保育園において、様々な人との関わりの中で生活している。その中心が保育士と友達であることは言うまでもない。外部講師である筆者たちが子どもたちの成長を担えることはわずかかもしれない。しかし本研究において、外部講師によるリトミック活動及びお楽しみ会が子どもたちにとって非日常的な空間を提供し、日常とは違った子どもたちの能力を引き出す可能性を見出すことができた。また特別な時間だからこそ子どもたちの心は揺り動か

され、その気持ちの高揚を保護者に伝えたくなくなったり、歌を口ずさんだりと楽しい気持ちを自宅にまで持続させ、家族に楽しさを伝染させることができる。そのような子どもたちの様子を保護者が見ることで、保護者自身の生きる動力となり、それがまた子どもたちへと伝わり、子どもたちの生きる支えとなっているのではないだろうか。

5 おわりに

「小さい頃から音楽やリトミックに親しむことはとても楽しいことですね。本当にリトミックを習ってよかったと思います。日常生活の中でも言葉や物を使ってリズム遊びも楽しめる新しい発見もありました！家でもどんどん楽しみたいと思います。リトミックのあった日はいつも家で楽しそうに話をしてくれました」という感想があった。現代社会の流れとして、目に見える成果を重要視し、「できる・できない」といった考え方が子どもたちにも染みついていくように思う。しかし、「できる・できない」と言ったことは以前より存在しており、それでも自分自身を受け入れ個性を育ててきた。しかし現代では、自己肯定感を持ってない子どもが多いと言われている。リトミック教室の開催にあたって、現代社会の流れを受け、5歳児になると知識重視の習い事に移行する子どもたちが見受けられるようになった。そのような社会の中で、子どもたちの未来を見据え、筆者たちに何ができるのか、何が求められているのかをこの研究を通して考察できた意義は大きい。

長時間・長期間保育の問題が議論されている中で、外部講師による活動が子どもたちの生活リズムにアクセント（刺激）を加え、また普段の生活を支えることができる可能性を見出した。子どもたちの「楽しかった!」「もう終わるの?」「気持ち良かった!」「また来てね、またしようね!」などといった、充実し達成感に満ち溢れた言葉を引き出せるような活動を、これからも継続し、さらに発展させていきたい。

注

- (1) R.エイブラムソン (1994) 「エミール・ジャック＝ダルクローズのアプローチ」板野和彦訳「音楽教育 メソードの比較」全音楽譜出版社 p63
- (2) エミール・ジャック＝ダルクローズ (1975) 「リズムと音楽と教育」板野 平訳 全音楽譜出版社 p66
- (3) 東 洋 (2012) 「文化と発達」高橋恵子・湯川良三・安藤寿康・秋山弘子 [編] (2012) 「発達科学入門[1]理論と方法」東京大学出版会 p190
- (4) エミール・ジャック＝ダルクローズ (1975) 「リズムと音楽と教育」板野 平訳 全音楽譜出版社 p52

- (5) エミール・ジャック＝ダルクローズ (1975) 「リズムと音楽と教育」板野 平訳 全音楽譜出版社 p77
- (6) エミール・ジャック＝ダルクローズ (1975) 「リズムと音楽と教育」板野 平訳 全音楽譜出版社 p69

参考文献

高橋恵子・湯川良三・安藤寿康・秋山弘子 [編] (2012), 「発達科学入門[2]胎児期～児童期」東京大学出版会